修羅場と人影　　岡本　悠

小太郎は、これが、２度目の精神病棟だった

閉鎖病棟に入れられた

１人、騒がしい男がいたが、この男とはのちのちケンカしてしまった

俺のそばには、あとあと親しくなる小池さんがいたが、その時はまだ他人

マンガの女帝などを読むしか時間を埋める術がなかった

お祈りの念仏を唱える人などがいたが、

それをマネして爆笑している人がいて、それに誘われて俺も爆笑した

そういう面白さは、こういうところは逆に面白い

ある時には、俺の服を見て、「それ、ババシャツだろ！」と言われて

２人で大笑いした

優等生だった、俺は、早々と、開放病棟に移った

すると、小池さんがいた

小池さんは、俺のことを「～ちゃん」づけで呼んだ

６人部屋だったが、駿河さんが、横で、ギター弾きの青年もいた

小池さんは、夕方になると、コンビニで新聞を買ってきた

スポーツ新聞で、読み終わると、俺にスポーツ欄を見せてくれた

１度は、デリバリーヘルスの記事を見ていたら

「何見てんの？」と、笑われた

俺は、冗談で言ってるのかわからなかったが、

「本気で言われてるのかと思って」と言うと

「冗談だよ」と返した

駿河さんは、真面目だが気さくな人だった

早々、いい女性がいるといって着いていくと

女医の先生のいる診察室の前ではしゃいだ

「綺麗でしょ？」と言っていた

俺にとっては、新しい世界観だった

病棟は、男子もあったが、女子の病棟もあった

若い俺は、まだ大人の女性たちに馴染めなかったが

小池さんや、駿河さんは、女性たちと気さくに話していた

ギター弾きの青年とは、最初は楽しく会話したが

どちからともなく、あまり声をかけあわない関係になってしまった

朝は、ラジオ体操で始まり、メニューが組まれて

そのプログラムをこなした

俺だけではないが、さぼる人間に対して

スタッフは怒りを募らせていた

俺の好きだった女看護師が

円満退社をすると聞いて観に行くと

花をうけとっていた

美形だが、歯並びが悪かった

それも味ではあったが

俺は、全部は見ないで部屋に入った

別段好きでやっていたわけではなかったが

１人で河川敷を散歩した

帰り道、病棟の女性と目が合ったので挨拶した

しかし、もう一度会って挨拶した時は

無視された

もう　必要のない量の挨拶だったのだろう

少し大人になった

傷ついたが...

ギターが病棟に置いてあったので１人で弾いていたら

駿河さんが「何か弾いてくれ」と言うので

「暗いのしかないですよ」と言いながら、自分の中でも明るい「メリークリスマス」という唄を唄った、

反応はマチマチだった

これを、あとで、駿河さんが、挨拶を無視した女性にも聴かせてやれと言ったので

ベランダで、１対１で「アイラブユー」などと唄ったもんだから

なんとも言えない反応をしていた

駿河さんに誘われてバスで旅に出た

憶えているのは、格闘技のジムを見せてもらおうとドアを開けたら、誰もいなかった

ボクシンググローブやミットが、黄色いマットに転がっていた

ある日は、東京ドーム大会に、プロレスを観にいった

中邑真輔　ー　ボブ・サップ戦だったが、サップが勝った

俺は、深夜０時すぎに戻ったので、皆がウワサをしていた

「結果は？」などと言われたが

小池さんは「なんで、１人で行っちゃうの？」と言うから

「チケット並ばせるの悪いと思って」と、正直に答えた

ただ、元々、誘うということすら、考えていなかっただけだった

いつも、１人で行っていたから、そういう理由だ

漫画は、プロレスラー列伝を読んでいた

父からは、暇つぶしにと、芥川賞の 20 歳の２人の受賞作の本を渡された

小池さんは「俺、こういうのは読まない！」と、キッパリと云った

小池さんは、「俺に料理作らせたら、金取るよ」とも言っていた

料理教室で、女性看護師の間近で喋ったら、顔を離して、嫌な顔をされた

俺のスリーポイントシュートの練習が、立て続けに５本入ったから、後ろから「天才だ！」と、声がしたが、そのとたん入らなくなり「な～んだ」という声が聴こえた

テレビカードを使い過ぎて、男性の看護師に注意された

それから、中年の女看護師の言い方が気に入らなかったので、文句を言ったら、謝ってきたが、俺は、赦さなかった気がする、どうでもいい

卓球大会では、ブサイクな男２人が、女２人と接戦になり、最後を急に女から「変わって」と任されたが、肝心なところで俺はミスして負けた、こういうところは俺らしかった

俺は、理由はよく憶えていないが、看護師に腹を立てて、窓から飛び降りようかという勢いで開けようとしたが、カギがかかっていたので出られなかった、なぜか、防犯ベルがなったが、俺は布団の中にもぐって泣いた、看護師が現れたが、駿河さんが「そっとしといて、あげましょうよ」となだめてくれていた...

ギター弾きの青年が、退院することになった、俺は、やっとの覚悟で、せめて「ギター頑張ってくださいね」と言うのが精一杯だった

スタッフの男性が、皆をまとめてミーティングをしたが、明らかに俺のことを喋って悪口を言っているようにしか聞こえなかったが、俺は下を向いていた、憎しみが生まれた

サッカーをやることになったが、俺は生真面目に本気でやっていたが、それがうっとうしかったらしく、はぐらかされた、俺はボランチや、キーパーをやり、女性にも厳しいパスを送った、それが、今のイチローの姿勢だから、正しいと思っている

ゲートボール大会の日が、近づいていた

俺は、小池さんから「ベッドが汚い」と注意されたが、掃除をしようかと思ったが、それもなんかな、と思いためらって無視した、小池さんは看護師に「ずっと、一緒にいれば、何を言いたいかくらいわかりますよ」と言っていた、でも、自然と、小池さんには恨みはなかった

俺の窓側の横のベッドの人は、ことごとく入れ替わっていた

ゲートボール大会の日、15 分ほどの広場へ、バスで行った
しかし、ささいな言葉にキレタ俺は
勝手に広場を出て、歩いて病院に帰った
病院に帰ると、皆、ホッとしていた
大問題になっていたようだった

しかし、俺は父親に電話をかけると「もう帰るよ」と言って、神田で待ち合わせて、病院を出た
生まれて初めて、電車に身を投げ出そうかとも考えたが、さすがにそれはしなかった

千葉の、職業訓練場の女性から電話が来ていた

両親が、勝手に手配していた

俺は、乗り気じゃなかった

１回会った時はまあまあだったが

２回目の時は、高飛車な態度に嫌気がさした

それからは、その女性からの電話は、無視した

遂に、退院の日が決まった

俺は、また殻にこもり、

退院することを、小池さんや、駿河さんたち、全員に、言わないで退院しようとした

上着の洋服は、生乾きの臭いがして、臭かったので、違う服に変えた

看護師の女性たちには、幾分バレテいた

それが、なんとなく、小池さんや、駿河さんに、伝わっているようだった

父親が迎えに来て、出ようとしたが

父が、「お世話になった方に、挨拶しなさい」と言うので

小池さんに、駿河さんに、あと２人に礼をすると、「頑張ってね」と声をかけてくれた

俺は、スタッフのあの男性だけには会いたくなかったので、バレナイように出た

荷台から、荷物を父の車に詰め込むと、病院と別れをあとにした

俺は、気づいたら、千葉のウィークリーマンションにいた

そこから、職業訓練場に通う生活が始まった

しかし、上手く行くはずもなかった

また　人間関係でイライラする生活が続いた

やがて、近くのマンションに引っ越したが

プロレスのビデオを見て過ごした

ある日、デリバリーヘルスを初めて試してみた

女性が来たが、なんというタイミングの悪さか

お湯が出ない

女は、冷水ではできないと言った

玄関では、ご用人が待っている

だから、しこってもらって、舐めてもらって、精子を放出して終わり

あっけなかった

女は言った、これ全部エロビデオ？　俺は、いや、プロレス、プロレスと云った...

「完」